

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号									
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目									
					1. 知識・理解		2. 技能・表現			3. 思考・判断		4. 態度・志向性		
					1-1	1-2	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	3-1	3-2	3-3
20UPWC3023	関係行政論	3	心理・社会福祉に関する支援を求められる分野における法律、制度を理解する。	1. 保健医療分野に関係のある法律、制度について概説できる。 2. 福祉分野に関係のある法律、制度について概説できる。 3. 教育分野に関係のある法律、制度について概説できる。 4. 司法・犯罪分野に関係のある法律、制度について概説できる。 5. 産業・労働分野に関係のある法律、制度について概説できる。	◎	◎	○	○			○		○	○
20UPWC1081	情報リテラシー	1	大学教育に適応し、安全で適切な情報活用ができるための基礎的な情報リテラシーを身につける。コンピュータやネットワークの知識、情報モラルの知識と実践力を育成するとともにオフィスソフトの活用をもとにしたレポート作成の基礎的な技能を確実に習得する。	1. 本学のシステムやオンラインサービスを知り、使いこなすことができる。 2. 基礎的なコンピュータやネットワークに関する知識、情報モラルに関する知識をもち、場面に応じて安全にコンピュータやネットワークを活用することができる。 3. レポートを作成するために必要なソフトの活用技能を習得し、課題に応じた簡単なレポート作成ができる。								◎		
20UPWC1091	英語 I	1	基本的な文法事項を確認し、「読む」スキルおよび「書く」スキルを中心に身につける。	1. 基礎的な文法事項を理解できる。 2. 英文の内容を正しく読み取ることができ、日本語に訳すことができる。						◎				
20UPWC1101	英語 II	1	基本的な文法事項を確認し、「読む」スキルおよび「書く」スキルを中心に身につける。	1. 基礎的な文法事項を理解できる。 2. 英文の内容を正しく読み取ることができ、日本語に訳すことができる。						◎				
20UPWC1113	Oral Communication I	1	「英文法はある程度わかっている、いざとなると英語が話せない」という人は多い。本授業では、英語でコミュニケーションを図る際のフォーマットを確認し、実際に「使う」ことを経験しながら、コミュニケーション能力を養う。	1. 英語の基礎文法や語彙を理解する。 2. 基本的な英語会話ができる。						◎				
20UPWC1123	Oral Communication II	1	「英文法はある程度わかっている、いざとなると英語が話せない」という人は多い。本授業では、英語でコミュニケーションを図る際のフォーマットを確認し、実際に「使う」ことを経験しながら、コミュニケーション能力を養う。	1. 英語の基礎文法や語彙を理解する。 2. さまざまな場面での基本的な会話ができる。						◎				
20UPWC1133	心理学研究法	1	心理学研究の基本的な論理、プロセス、および研究アプローチについて理解する。	1. 心理学を研究する上での心構えを身につける。 2. 心理学の研究を実施する際に、最低限知っておく必要のある知識やテクニックを身につける。 3. 心理学における質的研究および量的研究を含む実証的研究法について概説できる。 4. データを用いた実証的な思考方法を修得している。 5. 心理学研究における研究倫理について理解している。	◎		○							
20UPWC1143	臨床心理学概論	1	臨床心理学とは何かについて、基本的なものの見方、考え方を理解することを目的とする。臨床心理学の代表的な理論を学ぶとともに、さまざまな臨床領域で実践されている心理的援助についても学ぶ。	1. 臨床心理学の基礎的な知識を身につけることを目的とする。 2. 臨床心理学の代表的な理論と具体的な援助方法を学ぶ。 3. 臨床心理学の成り立ちについて概説できる。	◎		○	○					○	○
20UPWC1153	知覚・認知心理学(知覚)	1	実証事例を通じて、感覚・知覚のしくみ、およびその障害に関する基礎的な知識を理解する。	1. 人の感覚・知覚等の機序(メカニズム)およびその障害について概説できる。 2. 知覚心理学について基礎的な知識を得る。	◎		○						○	

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号																
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目																
					1. 知識・理解		2. 技能・表現			3. 思考・判断		4. 態度・志向性									
					1-1	1-2	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	4-3				
20UPWC1163	発達心理学	1	発達心理学の基礎的な概念・用語と、胎児期から高齢期までの発達の概要について理解し、生涯にわたる連続した発達について、心理学における基本的な理論を理解する。	1. 発達心理学の基礎的な概念・用語を理解し、胎児期から高齢期までの発達の概要をイメージできる。 2. 認知機能の発達および感情・社会性の発達について概説できる。 3. 自己と他者の関係の在り方と心理的発達について説明できる。 4. 誕生から死に至るまでの生涯における発達および各発達段階での特長について説明できる。 5. 発達障害等非定型発達について基本的な事項や考え方を概説できる。 6. 高齢者の心理社会的課題および必要な支援について説明できる。 7. 多様な概念を整理し、互いを関連づけながら、日常の身近な現象と結びつけることができる。	◎							○	○	○							
20UPWC1173	権利擁護と成年後見制度	1	社会福祉学の価値の一つである人権の尊重を中心に、法の基本原理（成年後見制度含む）を理解する。	相談援助職として法（日本国憲法の基本原理、民法（成年後見制度含む）・行政法）を活用する知識を得るとともに、専門職としての素養を身につける。		◎			○												
20UPWC1183	精神保健福祉援助技術総論	1	精神保健福祉士が行う相談援助の対象と相談援助の概要について理解し、精神保健福祉活動における総合的かつ包括的な援助と多職種連携について知る。	精神保健福祉援助技術に関する下記の項目について各個別事象から理解することができる。 (1) 精神保健福祉士が行う相談援助活動の対象と相談援助の基本的考え方 (2) 相談援助に係わる専門職の概念と範囲 (3) 精神障害者の相談援助における権利擁護の意義と範囲 (4) 精神保健福祉活動における総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義と内容			◎							○							
20UPWC1193	精神保健学 A	1	1. 精神の健康についての基本的な考え方と、精神保健学の役割について理解する。 2. 現代社会における精神保健の諸課題について理解する。	1. 精神の健康と、それに関係する要因（ストレス、ライフサイクル、生活習慣など）、および精神保健の概要について説明できる。 2. 精神保健から見た、家族、学校教育などの課題と、それらへのアプローチについて説明できる。	◎	◎		○													
20UPWC1203	精神保健学 B	1	1. 精神保健学 A に引き続き、現代社会における精神保健の諸課題について理解する。 2. 精神保健の実際、および精神保健福祉士の役割について理解する。 3. 精神保健を維持、増進するために機能している、専門機関や関係職種の役割と連携について理解する。 4. 国際連合の精神保健活動や、他の国々における精神保健の現状と対策について理解する。	1. 精神保健から見た、勤労者、その他の現代社会の課題と、それらへのアプローチについて説明できる。 2. 精神保健に関する対策と精神保健福祉士の役割について概説できる。 3. 地域精神保健に関する諸活動について説明できる。精神保健に関する今なお残る偏見・差別等の課題を指摘できる。 4. 精神保健に関する専門職種（保健師等）と国、都道府県、市町村、諸団体等の役割、およびそれらの間の連携について説明できる。 5. 諸外国の精神保健活動の現状と対策について概説できる。	◎	◎		○													
20UPWC1213	理系女性のキャリアパス設計論	1	本講義では、男女共同参画社会の実現、社会における理系女性の位置づけ、およびキャリア形成における支援制度や政策をテーマとした実習重視型の講義を行う。そして、受講者が目指すキャリアを明確化してキャリアパスを設計し、実践的なスキルを獲得することで、社会で主体的に活躍できるように支援することを目的とする。	1. 日本の男女共同参画の現状について、世界各国との比較から説明できる。 2. ライフイベント（出産、育児、介護）と仕事を両立しながら活躍している女性の講演から、多様な働き方があることを認識し、キャリアを継続するために利用可能な制度等に関する知識を持つ。 3. グループディスカッションや個人発表会を通して、コミュニケーション能力や発信力・傾聴力などに代表される「社会人基礎力」を身につける。 4. 将来のキャリアパスをイメージし、具体的に組み立てることができる。									◎						○	○	

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号																			
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目																			
					1. 知識・理解			2. 技能・表現			3. 思考・判断			4. 態度・志向性										
					1-1	1-2	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	4-3							
20UPWC1223	生命科学と倫理を巡る知性と感性	1	現代社会を支える科学技術の基盤となっている科学技術的思考法を学習する。哲学の考え方や倫理問題、研究開発などの講義を通して、探究心を向上させ、広い視野で実践的な思考態度を身につけることを目的とする。	1. 科学技術分野の基礎となる生命科学や情報科学の基本的枠組みを理解する。 2. 哲学や倫理問題など一義的に正解のない問題に対し、自分の考えをまとめることができる。 3. 発表討論会およびディスカッションを通して、自らの意見を的確に述べるとともに、他者の発表内容から多様な考え方に触れ、本講義で学んだ内容について深い洞察力や考察力を身につける。				○	○	○					◎									
20UPWC1233	地域活性化システム論	1	地域の活性化に必要な知識、構造、問題点等を明らかにし、系統的に理解することにより、地域再生に必要な方策を考える能力を身につけることを目的とする。特に、関西地域の活性化に向けて、医療・医学、福祉、医工学・情報学分野でどのような取り組みが必要であるか、またどのような連携システムの構築が必要であるかを学習する。	1. 医療、福祉、教育、ICT（情報通信技術）など多分野からの地域活性化の実例を通して、地域活性化の方法論を理解する。 2. 自分の居住地域の問題に関心を持ち、地域を活性化させるために必要なものを具体的に考えることができる。 3. 総合討論における講師・受講生とのディスカッションにおいて積極的に発言し、自らの考えを的確に述べることができる。												○	◎							
20UPWC3033	プレプロフェッショナル教育	3	近年の医・歯・薬学、工学・情報学の目覚ましい発展により、各分野を融合した医工学研究領域が新たな学問として脚光を浴びている。しかし、医学を理解した工学・情報学系の人材、工学・情報学系を理解した医療従事者は乏しいのが現状である。本科目では専門色が強く、かつ実習を取り入れた講義を行い、医工学領域の即戦力として活躍するために必要な知識を得ることを目的とする。	1. 専門科目では、臨床医工学・情報学の融合分野における最新の知見を学習し、各講義テーマと自らの専門分野・関心領域の知識とを結びつけて考えることができる。 2. 共通科目においては理系（科学）英語の読み方・書き方および統計解析の考え方を学び、演習を通して研究をする上で必要となる基礎的なスキルを身につける。 3. 実習では医療や福祉の現場を体感し、最新の機器等について理解を深めるとともに、講師とのディスカッションから研究倫理・職業観を養う。 4. 本科目全体を通して、臨床医工学・情報学の融合分野への興味関心を喚起しながら自らが進む方向（分野）を考え、将来のキャリア形成の一助とすることができる。																◎				
20UPWC1243	多職種協働グループワーク実践論	1	医療や福祉の現場において、高度な医療や全人的な福祉を实践するために、多様な専門職が協調しながら職務を遂行する「チーム医療」・「チーム福祉」の取り組みが求められている。将来、臨床医工情報学の融合分野において、互いの専門性を理解しながら主体的に活躍するためには、コミュニケーション能力やリーダーシップ能力、課題発見・課題解決力などが必要である。本講義では、異分野の学生とのグループディスカッション・発表プレゼンテーションを通して、それらの能力を養い、協調的な学習から相互理解を深めるとともに、グループだからこそ生まれる新しい知見・アイデアを創造することを目的とする。	1. 学生間の相互理解と問題解決に向けた共通認識を持つために、自分の専門分野の知識を異分野の学生にもわかりやすく伝えることができる。 2. グループが1つのチームとして有機的に活動し、協調的な学習から異分野融合による新しいアイデアを創造することができる。 3. 異分野の学生とのグループディスカッションおよびグループ発表会を通して、コミュニケーション能力や発信力・傾聴力などに代表される「社会人基礎力」を身につける。																		◎	○	○

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号																			
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目																			
					1. 知識・理解			2. 技能・表現			3. 思考・判断			4. 態度・志向性										
					1-1	1-2	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	4-3							
20UPWP2073	学習・言語心理学 (学習)	2	学習心理学における主要なテーマである条件づけと記憶の理論について理解することを目的とする。	1. 経験を通して人の行動が変化する過程を説明できる。 2. 学習や記憶に関する様々な理論や仕組みを知り、それらを日常場面と結びつけて理解できる。	○									◎	○									
20UPWP4013	学習・言語心理学 (言語)	4	ことばに関する様々な心理学的・言語学的研究事例の紹介と検討を通して、人間が言語を扱う能力や運用のしくみ、言語を習得していく過程などを学ぶ。	1. 人が言語を扱う能力に関する学問的知識を習得している。 2. 言語運用やコミュニケーションに関する学問的知識を有している。 3. 論理的・客観的思考力を身につける。 4. 言語の習得における機序について解説できる。	◎		○	○				○	○		○									
20UPWP4023	感情・人格心理学 (感情)	4	人間の感情に関する理論やメカニズムを学ぶことを通して、感情と行動の関係を理解し、感情心理学の基礎知識を持つことを目標とする。	1. 感情に関する理論および感情喚起の機序 (メカニズム) について概説できる。 2. 感情が行動に及ぼす影響について概説できる。 3. 感情心理学について幅広く基礎的知識を得る。	◎																	○		
20UPWP3023	感情・人格心理学 (人格)	3	人格 (パーソナリティ) の諸理論を概観し、人格とは何かを理解し、人格がどのように形成され、表出されるのかについて学び、人格心理学の基礎知識を持つことを目標とする。	1. 人格 (パーソナリティ) の概念および形成過程について概説できる。 2. パーソナリティについて行われてきた基礎的研究について理解し、パーソナリティの類型、特性等について概説できる。 3. 様々な日常場面において、パーソナリティが実際にはどのように影響するかについて学ぶ。	◎										○	○								
20UPWP3033	神経・生理心理学 (生理)	3	人間行動の基本的メカニズムに関する生理学的側面からの理解を目的とし、生理心理学の基礎となる神経系の構造と働きおよび、脳・身体と行動との関係を理解する。	1. 脳神経系の構造および機能について概説できる。 2. 記憶、感情、ストレス等の生理学的反応の機序 (メカニズム) について概説できる。	○																		◎	
20UPWP3043	神経・生理心理学 (神経)	3	脳の構造と正常なはたらきを理解した上で、失語症、失認症、失行症などの高次脳機能障害および発達障害にみられる神経心理症状について学ぶ。これらの理解を通して高次脳機能障害者や発達障害児 (者) の内的世界への洞察を深め、適切な臨床的態度を身につけることを目指す。	1. 脳神経系の構造および機能について概説できる。 2. 高次脳機能の障害および必要な支援について説明できる。 3. 脳障害者や発達障害児 (者) の行動や内的世界への洞察を深め、脳障害や発達障害に関する基礎知識を習得する。 4. 脳障害者や発達障害児 (者) の行動や心理を、その表面的な特性に振り回されるのではなく、本質的課題を見極め、共感的に理解できる能力を養う。	○		○						○	○	◎	○	○	○						
20UPWP2083	社会・集団・家族心理学 (社会・集団)	2	社会心理学ならびに集団心理学の目的である、社会的場面・集団的場面における社会的行動のメカニズムを理解し、予測し、これを制御するために、社会的行動の規則性ないし法則性を理解する。	1. 社会・集団心理学に関する基本的な考え方を理解する。 2. 対人関係ならびに集団における人の意識および行動についての心の過程を説明できる。 3. 人の態度および行動について様々な理論を用いて説明できる。 4. 科学的な視点から人間行動を理解する方法を獲得する。 5. 日常的な行動のメカニズムについて、科学的・論理的に分析することができる。 6. 社会・集団心理学の知識を対人場面の問題解決に適用することができる。	○		○								◎	○	○							
20UPWP4033	社会・集団・家族心理学 (家族)	4	本講義は、社会、集団、家族に関連した心理学について講義を実施する。講義では、家族、集団、文化が人に及ぼす影響について学ぶ。そして、家族や家族の心理について自分の考えを持つことができ、さらに、他の学生とも意見交換を行い、社会、集団、家族心理学について理解する。	1. 家族、集団および文化が個人に及ぼす影響について概説できる。 2. 自分の考えと他者の意見を双方向に交流させることができる。 3. その上で家族や家族心理についての、自分の考えをしっかりと持つことができる。	○				○						○	◎	○	○	○					

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号												
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目												
					1. 知識・理解		2. 技能・表現			3. 思考・判断		4. 態度・志向性					
1-1	1-2	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	4-3					
20UPWP3053	障害者・障害児心理学	3	各障害について定義（概念）を明確にし、それぞれの障害に特有の発達上の課題、社会生活上で生じてくる様々な問題を理解すること、そして問題解決のための心理学的援助のあり方を理解することを目標とする。	1. 身体障害、知的障害および精神障害について概説できる。 2. 障害者、障害児の心理社会的課題および必要な支援について説明できる。	◎	◎					○	○	○				
20UPWP2093	心理学的支援法	2	心理カウンセリングや心理療法といった心理学的支援の理論と技法について体系的に学ぶ。また、実際の臨床現場で心理カウンセリングや心理療法といった心理学的支援がどのように行われているのかも知る。	1. 心理的支援を要するクライアントの心理学的問題を適切に理解する。 2. 代表的な心理療法ならびにカウンセリングの歴史、概念、意義および適応について概説できる。 3. 訪問による支援や地域支援の意義について概説できる。 4. 心理に関する支援を要する者およびその関係者の特性や状況に応じて適切な支援方法を選択・調整することができる。 5. 良好な人間関係を築くためのコミュニケーション能力を身につける。 6. 心理療法やカウンセリングの適用には限界があることを説明できる。 7. 心理に関する支援を要する者等のプライバシーに配慮できる。 8. 心の健康教育について理解できる。	◎		○	○				○	○	○			
20UPWP4043	健康・医療心理学	4	1. ストレスと心身の疾病の関係について理解する。 2. 医療現場における心理社会的課題および必要な支援方法について理解する。 3. 様々な保健活動における心理社会的課題および必要な心理に関する支援について理解する。 4. 災害時などに必要な心理に関する支援について理解する。	1. ストレスと心身の疾病の関係について概説できる。 2. 医療現場における心理社会的課題および必要な支援方法について説明できる。 3. 様々な保健活動における心理社会的課題および必要な心理に関する支援について説明できる。 4. 災害時などに必要な心理に関する支援について説明できる。	○		◎	○			○		○				
20UPWP3063	福祉心理学	3	福祉現場において生じる諸問題について、その背景を心理的・社会的観点から理解する。さらに、社会福祉の対象となる人びとに対する支援を心理学的観点から考えることを目的とする。	1. 福祉現場において生じる問題およびその背景について説明できる。 2. 福祉現場における心理社会的課題および必要な支援方法について説明できる。 3. 虐待についての基本的知識と必要な支援について説明できる。 4. 高齢者の心理社会的課題および必要な支援について説明できる。	◎	◎	◎				○	○	○	○			
20UPWP4053	教育・学校心理学	4	教育現場では日々様々な問題が発生しているため、このような問題の背景を理解し、改善するための援助方法を検討するための心理学的アセスメントについて理解することが必要になる。本講義では、教育現場でできる援助方法を検討し、他機関との連携ならびに学校内でのケース検討会議の方法を理解する。さらに、保護者との関わり方や介入方法を学び、必要な援助方法を考えるとともに、心理社会的課題も考えられる能力を身につける。	1. 教育現場において生じる問題およびその背景について説明することができる。 2. 教育現場に必要な児童・生徒理解に対する心理学的見方や心理的アセスメントについて理解する。 3. 児童・生徒への心理教育的援助方法について理解する。 4. 教育現場においてチームアプローチ、機関連携、ケース会議などをコーディネートする援助サービスの技能について理解する。 5. 保護者に対する関わり方や介入方法について理解する。 6. 教育現場における心理社会的課題および必要な援助方法について説明できる。	○		◎	○			○	○	○	○	○	○	

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号											
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目											
					1. 知識・理解		2. 技能・表現			3. 思考・判断		4. 態度・志向性				
					1-1	1-2	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2
20UPWP2103	司法・犯罪心理学	2	本講義は、犯罪、非行、犯罪被害および家事事件について理解するため、以下のような講義を実施する。 1. 犯罪、非行、犯罪被害および家事事件についての基本的知識を身につける。 2. 犯罪学の諸理論を理解するとともに、理論を批判的に吟味することで合理的・論理的な思考力を身につける。 3. 犯罪・非行とよばれる反社会的逸脱行動は心理的な要因のみで生じるものではなく、環境的・状況的・社会的な要因や生物学的な負因などが複合して生じることを概説する。 4. 心理学が犯罪・非行領域でどのように応用・援用されているかを概説する。 5. 警察、司法、矯正保護などの刑事政策に関わる諸機関の役割やそこで働く心理系専門職の実務を知る。 6. 精神障害者の犯罪、精神鑑定、裁判員制度、少年司法制度など、関連する諸問題についても概説する。	1. 犯罪、非行、犯罪被害および家事事件についての基本的知識を概説できる。 2. 犯罪学の諸理論を理解するとともに、理論を批判的に吟味することで合理的・論理的な思考力を身につける。 3. 司法・犯罪分野における問題に対して必要な心理に関する支援について説明できる。 4. 犯罪・非行領域における心理検査の活用や矯正処遇技法の初歩的な実践力を身につける。 5. 犯罪・非行にかかわる心理実務者の仕事を知り、将来の職業選択について考える。 6. 精神障害と犯罪、少年司法、裁判員制度などのテーマを通して、市民としての社会的責任を自覚するとともに、社会的な問題に対する関心を深め、生涯学習力を身につける。	◎		○						○		○	
20UPWP3073	産業・組織心理学	3	職場や組織における人間行動について理解することを目的とする。さらに、職場において必要となる心理的支援およびその方法について理解する。	1. 職場（キャリア形成に関することを含む）における問題に対して必要な心理に関する支援およびその方法について説明できる。 2. 組織における人の行動について概説できる。	○		◎						○			
20UPWP3083	公認心理師の職責	3	保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働など様々な分野において、心理に関する支援を行う公認心理師の役割について理解することを目的とする。さらに、法的義務や職務上の倫理について理解し、公認心理師に求められる態度や資質の育成を目指す。	1. 公認心理師の役割について理解する。 2. 公認心理師の法的義務を理解し、必要な倫理を身につける。 3. 心理に関する支援を要する者等の安全を最優先し、常にその者中心の立場に立つことができる。 4. 守秘義務および情報共有の重要性を理解し、情報を適切に取り扱うことができる。 5. 保健医療、福祉、教育その他の分野における公認心理師の具体的な業務の内容について説明できる。 6. 自己課題発見・解決能力を身につける。 7. 生涯学習への準備を行う。 8. 多職種連携および地域連携のあり方について修得する。	○		◎			○		○	○	○	○	
20UPWP3093	心理演習	3	心理に関する支援を要する者等の支援についての知識および技能の基本的水準の修得を目的とし、具体的な場面を想定したロールプレイや事例検討を通して学ぶ。	1. 心理に関する支援を要する者等に関する①コミュニケーション、②心理検査、③心理面接、④地域支援等の知識および技能を修得する。 2. 心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握および支援計画の作成について修得する。 3. 心理に関する支援を要する者等の現実生活を視野に入れたチームアプローチについて修得する。 4. 多職種連携および地域連携のあり方について修得する。 5. 公認心理師としての職業倫理および法的義務への理解について修得する。	○	○	○		◎	○		○	◎		○	○

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号										
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目										
					1. 知識・理解		2. 技能・表現			3. 思考・判断		4. 態度・志向性			
					1-1	1-2	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	3-1	3-2	3-3	4-1
20UPWP4063	心理実習	4	保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働分野等における施設において、見学等による実習を行いながら、心理に関する支援を要する者への支援の実際について体験的に学ぶ。	1. 実習施設の見学等の実習を通して、心理に関する支援を要する者へのチームアプローチについて、身につける。 2. 実習施設の見学等の実習を通して、多職種連携および地域連携の実際について、体験的に理解を深める。 3. 公認心理師としての職業倫理および法的義務への理解を体験的に学ぶ。	○	○			○	○		○	○	○	◎
20UPWP4073	心理実習指導	4	心理実習を通して、体験的に学んだことを、心理に関する専門的知識および技能として整理し、体系化することを目的とする。	1. 実習記録として、心理実習の内容を整理し、振り返る。 2. 実習担当教員に、報告・連絡・相談を適切に行うことができる。 3. 具体的な体験や支援活動を、心理に関する専門的知識および技術として概念化・理論化し、体系立てることができる。 4. 実習を通して、心理に関する支援を要する者等についての情報を収集し、課題を抽出・整理できる。	○	○			○	○		○	○	○	◎
20UPWP3103	心理調査概論	3	心理学におけるデータ収集方法について理解する。さらに、研究倫理について理解を深める。	1. 心理調査の基本的な考え方を概説できる。 2. 心理学研究における心理調査の目的とその手順を修得している。 3. 心理学研究における研究倫理について理解している。	◎		◎		○			○	○		
20UPWP2113	消費者心理学	2	人々の消費行動における、意思決定に関わる社会心理学的メカニズムについて理解する。また、マーケティングの基礎概念および購買行動についての考察を通して、多面的に消費行動を捉える能力を養うことを目標とする。	1. マーケティングの基本的な考え方を理解する。 2. 消費者行動理解における心理学的観点からのアプローチの重要性を理解する。 3. 心理学に限らず、関連分野にも視野を広げ多面的に消費行動をとらえようとする姿勢を持つ。	○		○							◎	
20UPWP2123	心理学英語文献講読	2	心理学のテーマを扱った英語論文の読み方と読解の基礎について学び、各自がすでに習得している読み方のスキルを高めるだけでなく、心理学の文献を読み理解するための新たなスキルを獲得する。	1. 英語論文の文章内容が把握できる。 2. 英語論文の詳細が理解できる。 3. 英語論文の日本語での要約ができる。	○				◎						
20UPWP2133	データ処理論 I	2	心理学や社会科学で、アンケート調査や実験を行った際、そのデータ処理になくてはならない統計的な検定の具体的手順を理解し、パソコンによるデータ処理スキルを習得することを目的とする。	1. 心理学的手法により収集されたデータをパソコンを用いて適切に分析できる。 2. 分析結果を文章や図表を用いて、説明することができる。	○		○				◎		○		
20UPWP2143	データ処理論 II	2	心理学や社会科学で、アンケート調査や実験を行った際、そのデータ処理になくてはならない統計的な検定の具体的手順を理解し、パソコンによるデータ処理スキルを習得することを目的とする。	1. 心理学的手法により収集されたデータをパソコンを用いて適切に分析できる。 2. 分析結果を文章や図表を用いて、説明することができる。	○		○				◎		○		
20UPWP4083	医療ソーシャルワーク	4	1. ソーシャルワークの視点とスキルは活躍する場によらず普遍的である。その一方で、的確な援助のためには分野固有の価値やシステムを意識せねばならないことを知る。 2. 今日、多くの事例が保健医療と関わりを有する実態を踏まえて、医療ソーシャルワーカーの倫理、実践、職種間連携のあり方への理解を深める。	1. 医療ソーシャルワークの基礎知識や援助技術について学ぶ。健康かつ文化的な生活を維持・増進させるための医療福祉サービスの広がりをも具体的に想起できることが目標である。 2. 社会福祉の理論や実践が、現代の医療現場における困難や葛藤を緩和できる可能性について認識を新たにす。			◎						○		

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号															
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目															
					1. 知識・理解		2. 技能・表現			3. 思考・判断		4. 態度・志向性								
					1-1	1-2	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	4-3			
20UPWS4043	健康・医療心理学	4	1. ストレスと心身の疾病の関係について理解する。 2. 医療現場における心理社会的課題および必要な支援方法について理解する。 3. 様々な保健活動における心理社会的課題および必要な心理に関する支援について理解する。 4. 災害時などに必要な心理に関する支援について理解する。	1. ストレスと心身の疾病の関係について概説できる。 2. 医療現場における心理社会的課題および必要な支援方法について説明できる。 3. 様々な保健活動における心理社会的課題および必要な心理に関する支援について説明できる。 4. 災害時などに必要な心理に関する支援について説明できる。	○	◎	○		○	○										
20UPWS3033	福祉心理学	3	福祉現場において生じる諸問題について、その背景を心理的・社会的観点から理解する。さらに、社会福祉の対象となる人びとに対する支援を心理学的観点から考えることを目的とする。	1. 福祉現場において生じる問題およびその背景について説明できる。 2. 福祉現場における心理社会的課題および必要な支援方法について説明できる。 3. 虐待についての基本的知識と必要な支援について説明できる。 4. 高齢者の心理社会的課題および必要な支援について説明できる。	◎	◎			○	○	○	○								
20UPWS4053	教育・学校心理学	4	教育現場では日々様々な問題が発生しているため、このような問題の背景を理解し、改善するための援助方法を検討するための心理的アセスメントについて理解することが必要になる。 本講義では、教育現場でできる援助方法を検討し、他機関との連携ならびに学校内でのケース検討会議の方法を理解する。さらに、保護者との関わり方や介入方法を学び、必要な援助方法を考えるとともに、心理社会的課題も考えられる能力を身につける。	1. 教育現場において生じる問題およびその背景について説明することができる。 2. 教育現場で必要な児童・生徒理解に対する心理学的見方や心理的アセスメントについて理解する。 3. 児童・生徒への心理教育的援助方法について理解する。 4. 教育現場においてチームアプローチ、機関連携、ケース会議などをコーディネートする援助サービスの技能について理解する。 5. 保護者に対する関わり方や介入方法について理解する。 6. 教育現場における心理社会的課題および必要な援助方法について説明できる。	◎		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
20UPWS2013	ソーシャルワーク論ⅠA	2	1. 相談援助における人と環境との交互作用に関する理論について理解する。 2. 相談援助の対象について理解する。 3. 相談援助の過程とそれに係る知識と技術について理解する。 4. 相談援助の実際について理解する。	1. 人と環境の交互作用について説明できる。 2. 援助の対象について説明できる。 3. 相談援助の過程について説明できる。 4. 相談援助における援助関係について説明できる。 5. 相談援助における面接技術について説明できる。		◎								○						
20UPWS2023	ソーシャルワーク論ⅠB	2	1. 相談援助における人と環境との交互作用に関する理論について理解する。 2. 相談援助の対象について理解する。 3. 相談援助の過程とそれに係る知識と技術について理解する。 4. 相談援助の実際について理解する。	1. 相談援助の過程について説明できる。 2. 相談援助におけるアウトリーチ、社会資源の活用・調整・開発、ネットワークについて説明できる。 3. 相談援助における記録の種類や方法について説明できる。 4. 相談援助と個人情報の保護の意義と留意点について説明できる。 5. 相談援助における情報通信技術（IT）の活用について説明できる。			◎								○					
20UPWS3043	ソーシャルワーク論ⅡA	3	1. 相談援助の対象と様々な実践モデルについて理解する。 2. 相談援助の過程とそれに係る知識と技術について理解する。 3. 相談援助の実際について理解する。	1. 集団を活用した相談援助について説明できる。 2. 相談援助における様々な実践モデルとアプローチについて説明できる。			○	◎							○					
20UPWS3053	ソーシャルワーク論ⅡB	3	相談援助における事例分析の意義と方法およびソーシャルワークによる支援の実際について理解する。	社会的排除、虐待、DVなど危機的状況にある相談援助事例についてソーシャルワークの視点から分析し、多様な理論を応用しながら問題解決に向けた支援を組み立てる基本的力量を身につける。			○	○					○	◎	○					

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号																	
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目																	
					1. 知識・理解		2. 技能・表現			3. 思考・判断		4. 態度・志向性										
					1-1	1-2	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	4-3					
20UPWS2123	地域福祉論 B	2	地域福祉におけるネットワーキングの意義と方法および地域福祉の推進方法について理解する。	地域を基盤としたソーシャルワーク専門職の理論と実践について学び、具体的地域課題を解決するための展開過程を考え、企画・提案する方法を習得する。		○		○	◎		○	○										
20UPWS2133	社会調査法	2	本講義ではソーシャルワーク実践に必要とされる社会調査の意義や方法の概要について理解する。 (1) 社会調査の設計や実施、分析に係る方法についての基本的知識や技術を学習する。 (2) 卒業論文の研究方法に関する基盤を得る。 (3) 情報収集、分析、解釈の力を養う。 (4) 国家資格取得試験に必要な社会調査法の知識を得る。	1. 図書館・データベースを使った文献検索をマスターする。 2. グループワークによる協働作業を通して方法を理解する。 3. 量的調査について理解する。 4. 質的調査について理解する。 5. 量的調査と質的調査の違いについて理解する。		○				○	◎	○	○									
20UPWS3113	現代社会と福祉 A	3	現代社会における福祉の意義とともに福祉の基礎的な知識を学ぶ。	福祉の原理、福祉制度・政策、相談援助活動等を中心に福祉の基礎的な知識を学ぶ。		◎																
20UPWS3123	現代社会と福祉 B	3	現代社会における福祉のあり方について思想面および政策面から学ぶ。	福祉の原理、福祉政策等を中心に福祉の基礎的な知識を学ぶ。		◎																
20UPWS3133	社会保障論 A	3	生活課題を抱えている個人等を支援する際に必要な知識を学ぶ。	社会保障制度に関する基本的知識を学んだ上で、社会保険制度を中心にその仕組みを学ぶ。		◎																
20UPWS3143	社会保障論 B	3	生活課題を抱えている個人等を支援する際に必要な知識を学ぶ。	社会保障制度に関する基本的知識を学んだ上で、社会保険制度を中心にその仕組みを学ぶ。		◎																
20UPWS3153	公的扶助論	3	低所得者等への援助に必要な知識を学ぶ。	低所得問題等の意味を理解した上で、生活保護制度や自立支援プログラムの仕組みと実際を学ぶ。		◎																
20UPWS3163	保健医療サービス	3	保健／医療／福祉分野のサービスは、根拠となる法制度は分かれても、各々密接不可分な関係にある。対人援助を志す時、保健や医療の現状を把握して、これらの制度の知識を有することは大きな力となる。保健医療が基盤とする価値、仕組み、利用者、課題と支援の体系につき理解を深める。	1. 今日における保健医療サービスの現状と課題を理解することができる。 2. 医療ソーシャルワーカーが保健医療分野に存在する意義について説明することができる。 3. 医療保険制度の概要について説明できる。 4. 保健医療サービスの概要と保健医療サービスにおける多職種協働について説明できる。		◎																
20UPWS3173	就労支援	3	相談援助活動において、必要となる各種の就労支援制度、就労支援に係る組織・団体専門職の役割と連携について理解する。	社会福祉士として、就労支援が行える基本的な力を涵養する。		○		○												◎		

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号												
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目												
					1. 知識・理解			2. 技能・表現			3. 思考・判断			4. 態度・志向性			
					1-1	1-2	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	4-3
20UPWS4103	精神保健福祉援助演習Ⅰ	4	精神保健福祉援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、精神障害者の生活や生活上の困難について把握し、精神保健福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。	次に掲げる具体的な課題別の精神保健福祉援助の事例を活用し実践的に習得する。 (1) 社会的排除 (2) 退院支援、地域移行、地域生活継続 (3) ピアサポート (4) 地域における精神保健（自殺、ひきこもり、児童虐待、薬物・アルコール依存等） (5) 教育、就労（雇用） (6) 貧困、低所得、ホームレス (7) 精神科リハビリテーション (8) その他の危機状態にある精神保健福祉		○			○	◎	○		○	○			
20UPWS4113	精神保健福祉援助演習Ⅱ	4	精神保健福祉援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、精神障害者の生活や生活上の困難について把握し、精神保健福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。	1. 次に掲げる具体的な相談援助を実践的に学ぶ。 (1) インテーク（受理面接） (2) 契約 (3) アセスメント（課題分析） (4) プランニング（支援の計画） (5) 支援の実施 (6) モニタリング（経過観察） (7) 効果測定と支援の評価 (8) 終結とアフターケア 2. 上記指導に当たっては、次に掲げる内容を含める。 (1) アウトリーチ (2) ケアマネジメント (3) チームアプローチ (4) ネットワーキング (5) 社会資源の活用・調整・開発		○			○	◎	○		○	○		○	○
20UPWS3223	精神保健福祉援助実習指導Ⅰ	3	精神保健福祉援助実習の意義について理解し、精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。	下記の項目について理解できる。 (1) 精神保健福祉援助実習と精神保健福祉援助実習指導における個別指導および集団指導の意義 (2) 精神保健医療福祉の現状（利用者理解を含む）に関する基本的な理解 (3) 実際に実習を行う施設・機関・事業者・団体・地域社会等に関する基本的な理解		○				○	○						◎
20UPWS4123	精神保健福祉援助実習指導Ⅱ	4	精神保健福祉援助実習に係る個別指導および集団指導を通して、精神保健福祉援助に係る知識と技術について具体的かつ実践的に理解し実践的な技術等を体得する。	下記の項目について理解できる。 (1) 実習先で必要とされる精神保健福祉援助に係る専門的知識と技術に関する理解 (2) 精神保健福祉士に求められる職業倫理と法的責務に関する理解 (3) 実習における個人のプライバシー保護と守秘義務の理解 (4) 「実習記録ノート」への記録内容および記録方法に関する理解 (5) 巡回指導（訪問指導、スーパービジョン） (6) 実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理と実習総括レポートの作成 (7) 実習の評価全体総括会		○				○	○						◎

